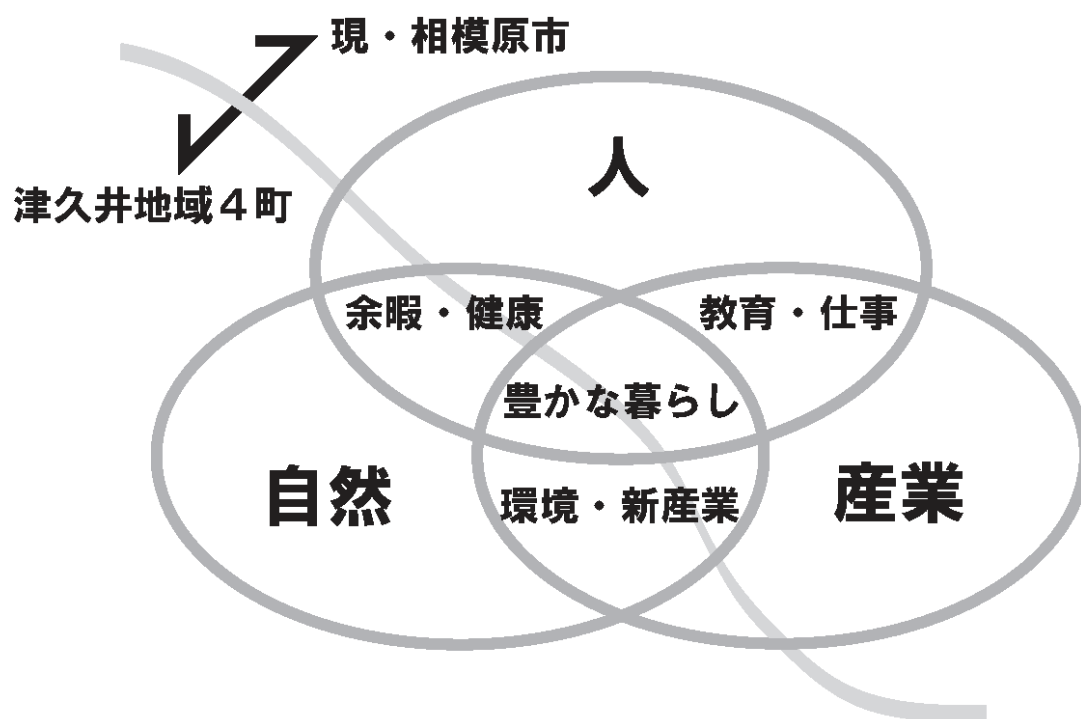


自立都市へ向けての 新“相模原市”づくりの提言



平成17年3月15日

相模原商工会議所
都市産業研究会

- 目 次 -

1.はじめに	1
(1) 誇れる・支持され続ける都市づくり	1
(2) 地域資源の連携・活用による相互享受	1
(3) 産業界・産業人としての提言	1
2.歴史的経過と特性	2
(1) 相模原市の都市形成の経緯	2
(2) 津久井地域4町の概況	3
(3) 産業部門における相互補完性	4
3.新“相模原市”への展望	5
(1) 現“相模原市”がめざす将来像	5
(2) 新たな都市イメージ	6
(3) めざすべき取り組み方向	7
(4) 産業界からの自立都市づくりの視点	8
4.新“相模原市”における新たな可能性	9
(1) 市民・事業所等の参画による“水と緑”のファンド事業	9
(2) 都市と農村が共存する美しい“相模原”づくり	10
(3) 里山の風景・環境を活かした集落地域での経済活動の誘発	10
(4) 自然環境資源を活かした環境学習機会の強化	11
(5) 季節感に応じた観光パッケージ商品の開発	12
(6) 産業交流拠点の整備	13
(7) 交通利便性の向上と移動手段を補完する情報ネットワークづくり	14
(8) バイオ技術と農業との連携による食材自給率の高い都市づくり	14
(9) 財産区等における遊休地や未利用農地等の有効活用・運営	15
(10) 資源の再利用・再生による産業化や資源循環社会の構築	15
(11) エネルギー自給都市の構築	16
(12) 自然資源と医療機関との協働による予防医学の産業化	16
(13) 産業と芸術のコラボレーション事業	17
(14) 知識社会における地域資源活用型の新たな産業の創造	17
5.進むべき方向性	18
(1) 新“相模原市”の樹立へ向けて	18
(2) 自立都市の形成から“政令指定都市”	19
(3) 今後の産業界の役割	19

1.はじめに

本提言書は、かねてより相模原商工会議所都市産業研究会が検討している“自立都市づくり”の一環として、相模原市と津久井地域(城山町、津久井町、相模湖町、藤野町)の広域都市形成に基づく新“相模原市”としての地域的发展の可能性と取り組み方向について、下記の視点から検討し、施策展開の資料として提言するものである。

(1) 誇れる・支持され続ける自立都市づくり

地方分権や行財政の三位一体の改革が推進される中で、各市町村においては創意工夫に基づく地方公共団体としての自立的都市経営が求められている。

自立都市の形成に向けては、市民が安心して生活し、愛着とこだわりに基づく環境づくりに参画することによる誇れる都市づくりへの取り組みが必要とされる。

また、少子高齢化が進展する中で、居住地・生活空間の選択等の都市間競争においては、より一層選ばれる時代となっていく、都市の個性づくりとサービス水準の魅力づくりが、支持され続ける都市づくりには不可欠な取り組みとなる。

(2) 地域資源の連携・活用による相互享受

自立的都市経営の推進方向の一つとして、公共投資の抑制・効率化が求められるが、真の自立都市の形成に向けては、内部循環システムの構築による外部経済の吸引機会の多様化を図ることが求められる。

本提案においては、新“相模原市”における地域資源の連携・活用における社会経済の内部循環の誘発を視点を、新市における地域的な特性に基づき、各地域における経済・社会ストック間での相互の利益・サービスの享受を念頭において検討する。

(3) 産業界・産業人としての提言

産業の担い手及び市場の変化の中で、経済の縮小傾向に対する危機感が生じているが、本市における経済発展の経緯や津久井地域の有する地域産業特性を踏まえた発展可能性の検討に基づき、新“相模原市”における産業人としての自立都市づくりへ向けての提言を行うものである。

自立都市の形成に向けては、公共サービスの充実とともに、経済・産業界の担う領域・部門は重要な位置を占めているとともに、その発展・拡充は1市4町の合併と合併後の新市の発展に不可欠なものであるとの認識に基づき、本提言を行うものである。

2. 歴史的経過と特性

(1) 相模原市の都市形成の経緯

相模原市は、相模川の左岸に南北に細長く広がる相模原台地の北半分に位置し、その台地の大部分が平らであるという地形上の特性や首都東京から40kmに位置するという立地的利便性から、急速な都市化が進み発展してきた。

その都市形成は、次のような都市づくりに係わる背景や都市政策に基づくものであり、自然発生的な都市成長という面よりも、時代背景や都市づくりに係わる人たちの叡智により築かれたものである。

首都東京に近接している立地条件 / 広大な空間開発しやすい地形条件	〔戦前〕 第一次大改造 「軍都計画」	国策としての「軍都計画」に基づき、昭和14年から県によって行われた市中央部の約1,600ヘクタールに及ぶ相模原都市建設土地区画整理事業により、現在の市庁舎を取り巻く整然とした街なみはこの時の遺産であり、広い道路や街路樹は相模原の未来都市づくりにとって大きな財産となっている。
	〔戦後〕 第二次大改造 「工業立市計画」	国策と市の都市政策が相まった工業都市づくり。昭和30年に制定された工場誘致条例と、33年に国の首都圏整備法で指定を受けた工業都市に向けての市街地開発区域をバネとした「工業立市計画」。 これ以降、相模原には工場進出が相次ぎ、全国でも有数の内陸工業都市の道を歩み、62.3万人という全国19番目の都市に発展する礎を築きました。
	〔近年〕 都市化成長	人口の飛躍的増大に伴い、生活環境の充実、消費生活における利便性の確保・市内購買力の強化、文化及び教育・福祉の充実等、各種都市基盤整備や公共施設の整備等の各種施策の展開による都市魅力の形成・充実の推進。

今後の課題：国際化、情報化、高齢化の時代の流れや、社会・経済はもとより、あらゆるシステムの転換を迫られている中での「自立都市相模原」の形成

(2) 津久井地域 4 町の概況

津久井地域 4 町は、水源地や発電施設等の広域的公共性という重要な役割を担っている。また、そこには、歴史と文化に培われた地域の人々の生活と都市部近郊における広大かつ貴重な自然環境・資源を有している。

各町の概況と特性	
城山町	<p>相模川沿いに続く平坦な相模原台地から山間部に入る地帯に位置し、南部は丹沢山系、北部は高尾山系に連なる山々や丘陵地があり、城山ダムにせき止められた津久井湖や水力発電のために造られた城山湖等がある。</p> <p>相模原市から続く平坦部は宅地化が進んでいるが、起伏に富んだ自然に恵まれており、自然と都市の調和のとれた住環境を持ち合わせている。</p>
津久井町	<p>北東部は市街地が形成され、その周辺には優良な農地が展開し、これを取り巻いて津久井湖や緩やかな丘陵地が広がっている。</p> <p>津久井湖、奥相模湖、宮ヶ瀬湖の 3 つの湖に恵まれ、美しい川の流れや緩やかな里山、丘陵地、雄大な丹沢山地の緑に恵まれた、首都圏における貴重な自然を有する水源の都市である。</p>
相模湖町	<p>北東部の影信山や小仏峠等の分水嶺を境に東京都に接し、町のほぼ中央を相模川が東流し、そこに県民の水がめである相模湖があり、町を南北に二分している。</p> <p>住宅や農地は、津久井町との境界を流れる道志川の河岸段丘上に集中しており、豊か自然環境の中で、バランスのとれた産業や生活が営まれている。</p>
藤野町	<p>北部には、連行峰や陣馬山等の比較的急峻な山々が、南部ではなだらかな山々が連なっている。町の中央部には、東西に相模川が流れ、その両側にやや開けた河岸段丘に住宅が集中しており、左岸には国道 20 号と JR 中央線、中央自動車道が東西に走り、まちの骨格を形成している。</p> <p>「ふるさと芸術村構想」を掲げ、美しい自然を舞台にして、活力あるまちづくりを展開している。</p>



今後の課題: 自然環境や地域資源の保全と活用のバランスの中から生み出される
創造性と活力ある地域づくりの推進

(3) 産業部門における相互補完性

相模原市と津久井地域は、相互に補完しあえる土地利用・空間的資源と産業特性を有している。

■ 人口

津久井地域から見た相模原市の62.3万人の人口や通勤通学等の広域交通流動は、活用すべき大規模マーケットである。また、全国から訪れる大学生や企業来訪者等は、口コミ・記憶という情報発信媒体となり、リピーターとして再訪し、新たな誘客を導いてくれる。

■ 土地

広大な土地資源と相模原市と津久井地域の土地利用特性

- ・相模原市の市域に対する市街化区域の面積比率71.6%、また、市域に対する可住地面積比率95.3%という開発可能性。
- ・津久井地域が有する森林や水面・河川・水路等の自然環境資源。(1市4町全体に占める津久井地域の森林:97.7%、水面・河川・水路:76.0%)

■ 農業

相模原市の都市近郊農業の生産性の高さや津久井地域の農業生産面積単位の狭小性を補完する新たな農業生産技術や供給対象及び生産物の多様化(相模原市の販売農家当りの農業粗生産額:約391万円/家、津久井地域の販売農家当りの農業粗生産額:約250万円/家)

■ 工業

内陸工業都市として発展してきた相模原市における低公害型工業集積と有数の技術を誇るハイテク企業群等の集積。さらに、大学や研究機関等の研究・開発力が立地している。

■ 商業

販路の拡大や流通機会の多様化による地域内経済循環の活発化。(相模原市の店舗当りの年間商品販売額:約23,161万円/店、津久井地域の店舗当りの年間商品販売額:約10,540万円/店) 年間商品販売額は、卸・小売業合計

■ 観光

相模原市の観光資源は相模川周辺に立地が偏っているが、湖や丘陵・森林資源等が広範囲に存在しているとともに、それらの保全・活用のための環境整備が推進されている。また、各地域では、都市観光資源として活用し得る多様な祭り・イベント等が行われている。

3. 新“相模原市”への展望

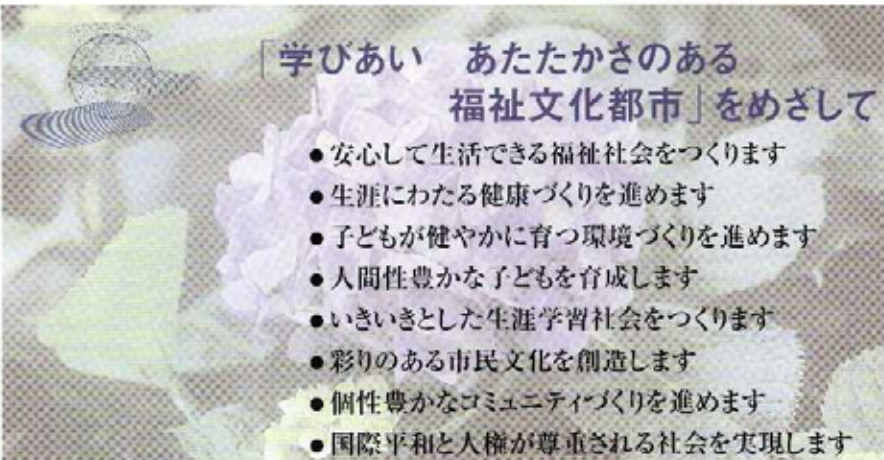
(1) 現“相模原市”がめざす将来像

周辺地域へ目を転じると、都市魅力の向上、充実した生活の創出へ向けて、より一層の魅力連携の可能性がある。

都市像

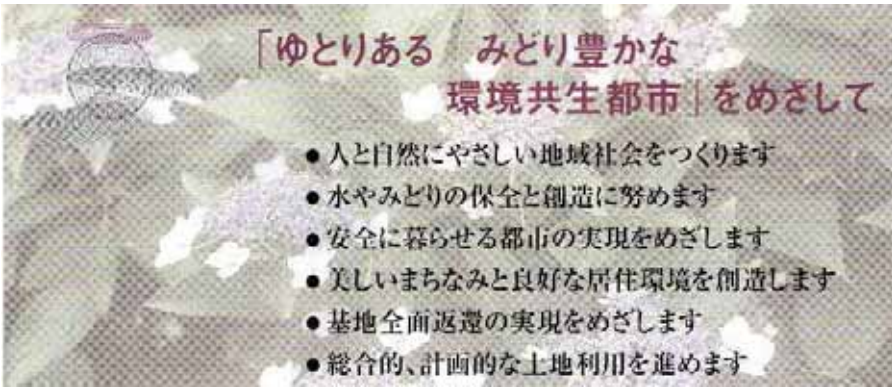
『輝きと愛があふれる人間都市 さがみはら』

基本目標



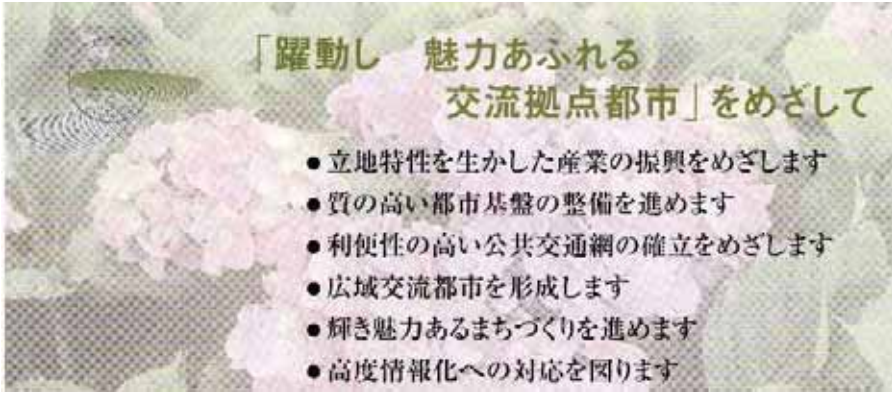
「学びあい あたたかさのある
福祉文化都市」をめざして

- 安心して生活できる福祉社会をつくります
- 生涯にわたる健康づくりを進めます
- 子どもが健やかに育つ環境づくりを進めます
- 人間性豊かな子どもを育成します
- いきいきとした生涯学習社会をつくります
- 彩りのある市民文化を創造します
- 個性豊かなコミュニティづくりを進めます
- 国際平和と人権が尊重される社会を実現します



「ゆとりある みどり豊かな
環境共生都市」をめざして

- 人と自然にやさしい地域社会をつくります
- 水やみどりの保全と創造に努めます
- 安全に暮らせる都市の実現をめざします
- 美しいまちなみと良好な居住環境を創造します
- 基地全面返還の実現をめざします
- 総合的、計画的な土地利用を進めます



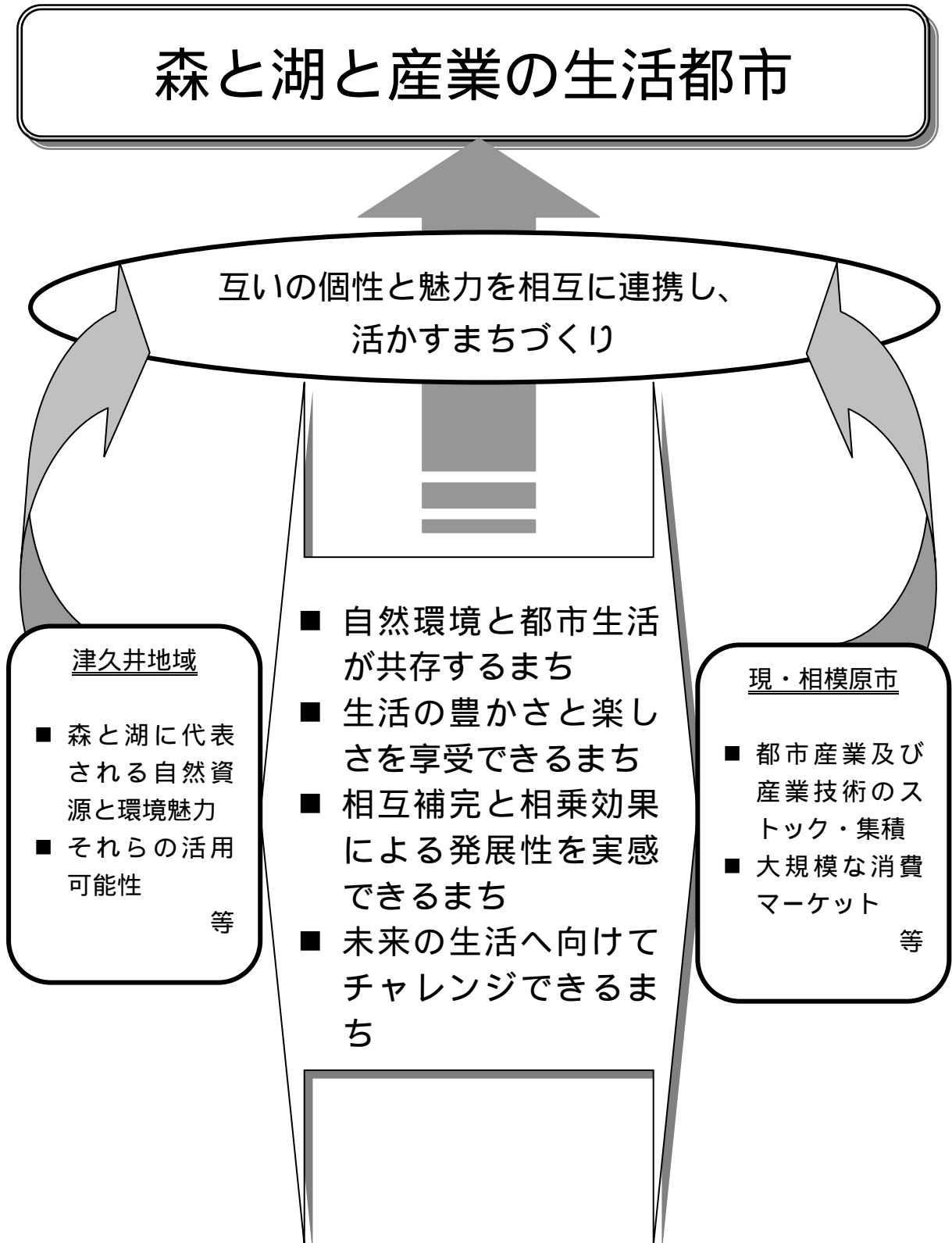
「躍動し 魅力あふれる
交流拠点都市」をめざして

- 立地特性を生かした産業の振興をめざします
- 質の高い都市基盤の整備を進めます
- 利便性の高い公共交通網の確立をめざします
- 広域交流都市を形成します
- 輝き魅力あるまちづくりを進めます
- 高度情報化への対応を図ります

〔新世紀さがみはらプラン 相模原市21世紀総合計画〕

(2) 新たな都市イメージ

現・相模原市の「内陸工業都市」や「ベッドタウン」としての都市から、津久井地域が共存し、より多くの魅力要素が備わることで、真の豊かさと将来の可能性が備わった都市形成が図られる。



森と湖と産業の生活都市

互いの個性と魅力を相互に連携し、
活かすまちづくり

津久井地域

- 森と湖に代表される自然資源と環境魅力
 - それらの活用可能性
- 等

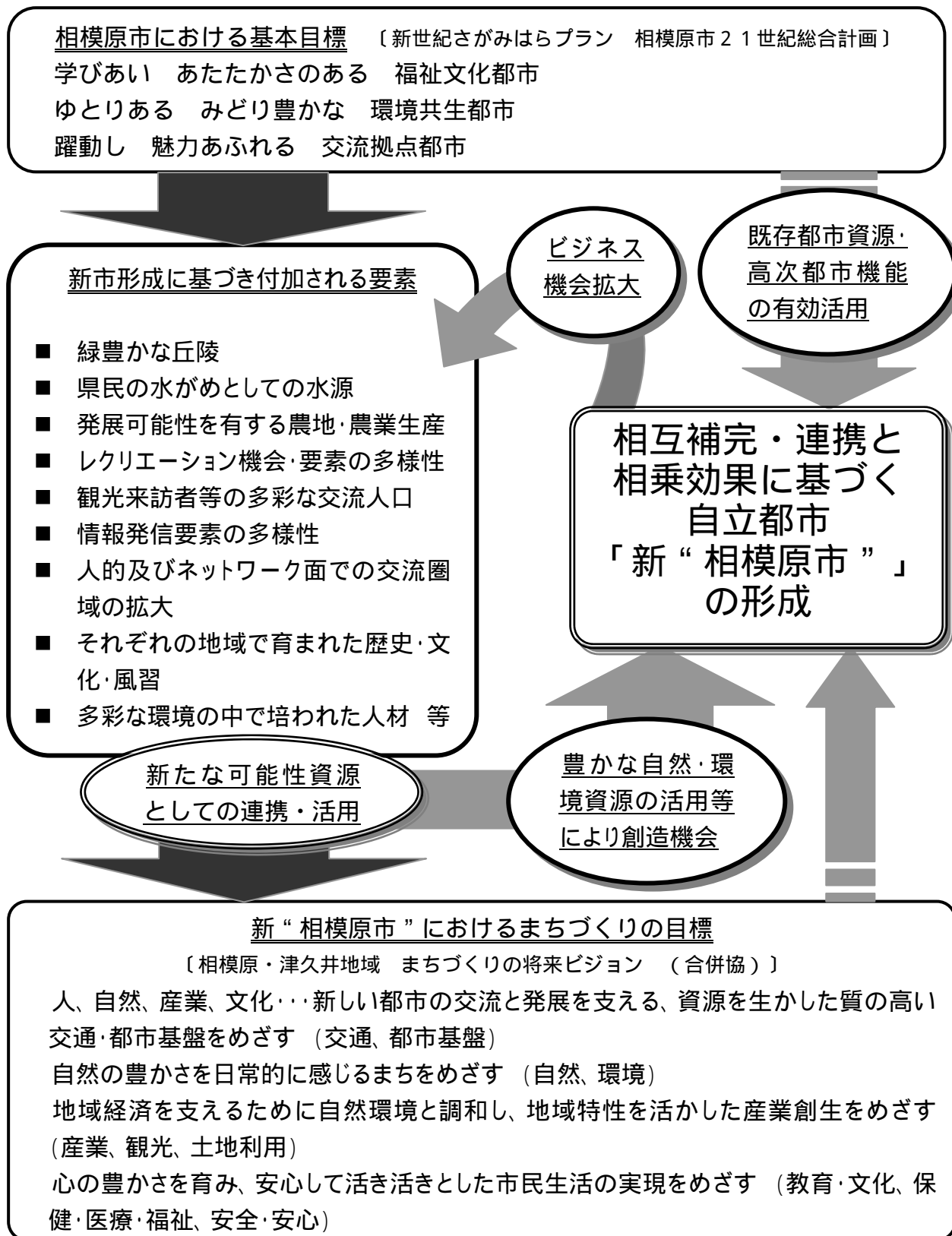
- 自然環境と都市生活が共存するまち
- 生活の豊かさと楽しさを享受できるまち
- 相互補完と相乗効果による発展性を実感できるまち
- 未来の生活へ向けてチャレンジできるまち

現・相模原市

- 都市産業及び産業技術のストック・集積
 - 大規模な消費マーケット
- 等

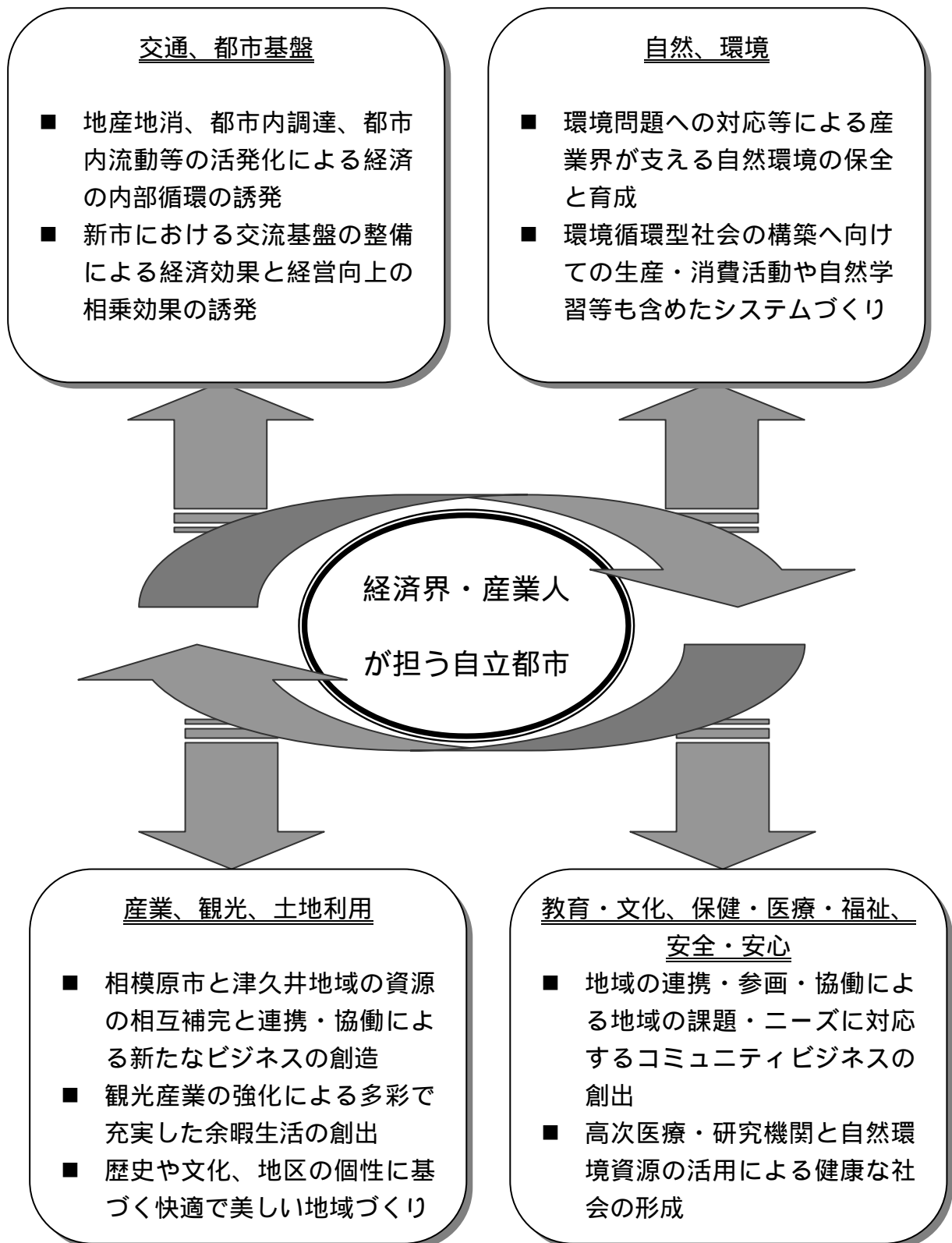
(3) めざすべき取り組み方向

広域連携に基づく相互補完と相乗効果の発揮をめざした取り組みにより、新たな都市魅力の創造と発展の可能性が生まれる。



(4) 産業界からの自立都市づくりの視点

産業界としての広域連携による発展性や取り組み可能性として、次のような視点が求められる。



4. 新“相模原市”における新たな可能性

(1) 市民・事業所等の参画による“水と緑”のファンド事業

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>京都議定書に基づくCO₂ 排出抑制等への取り組みに対する市民や事業所等の積極的参画による水と緑の自然環境の保全・活用のための基金の創出。</p> <p>市民や事業所の出資参画による基金の運用においては、林業や自然環境資源の保全と活用のための具体的活動とともに、自然環境資源に係わる広報・研究のための取り組みを図る。</p> <p>森内土壌が有する水を貯蔵するスポンジの役目(涵養機能)による土砂侵食・崩壊の抑制・防止とともに、山間部・森林で生み出されるフルボ酸が海の高藻の生育等に重要な要素となっている等、環境循環・保全のための森林資源の保全活動という川上からの参画を推進する。</p> <p>フルボ酸:森の中で枯木や落ち葉、動物の死骸などがバクテリアによって分解されるときに作られる。この酸による鉱物の分解を生物的風化と呼び、森林がもつ重要な役割となっており、鉄と強く結び付き、水に鉄が溶けたままの状態にして海に運び、海にとって鉄分の供給源としての重要な意味も持っている。</p> <p>各種事業所や市民参加による水源地の保全活動の推進。(植林活動や森林管理への参加、水源地の山林から川沿に至る環境美化・浄化運動の推進)</p> <p>森林資源の管理ビジネスの研究・創出。(観光ビジネスや森林療法ビジネス、間伐財活用等による林業・製材応用ビジネス等との連携)</p> <p>津久井地域の地場産材の普及・活用のための森林育成事業への基金の活用。</p> <p>地場産材の普及・活用のための製材事業と設計事務所・建築士・工務店・施工会社の合弁事業化(地場産材を活用したローコスト・健康住宅の供給等による新たな津久井地域ブランドの育成のためのモデル住宅の研究・開発や地場産材の利用促進のための奨励制度・融資制度の創設)</p> <p>水の安全性の確保と水が有する潜在的可能性(浄化、殺菌、漂白作用等)に関する総合的研究と水ビジネスの展開。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種事業所の集積 ■ 大規模な消費人口 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山林資源(林業の担い手不足) ■ 県民の水がめとしての相模湖 ■ 奥相模湖 ■ 宮ヶ瀬湖 ■ 城山湖 ■ 水源地を取り巻く山間・丘陵地 ■ 財産区【津久井町】 ■ 森林財産区【城山町】
<ul style="list-style-type: none"> ■ 桂川～相模川 ■ 製材、設計、建設、資材関係事業所(地域内関連事業所の交流) 	

(2) 都市と農村が共存する美しい“相模原”づくり

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>都市空間の賑わい性と農村空間の快適性が共存し、市民が誇れ、来訪者が魅力を体感する美しい景観・風景・風土を有するまちづくり・都市づくりの推進。 景観法に基づくまち・むら魅力の強化・演出事業。 土地、自然、環境についての保全と活用の方角を明確にした“都市づくり条例”の制定に基づく、山間・丘陵地に立地している環境阻害施設(廃棄物処理施設等)の都市部への適正な立地誘導。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画的に整備・開発された商業地や住宅地等の都市空間 ■ 広大な可住地、市街化区域(開発可能な土地) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山林、里山、川、湖、農村集落、歴史性、文化性、風土 ■ 小松や城北地区の里山・谷戸の環境風景、葉山島の水田景観【城山町】

(3) 里山の風景・環境を活かした集落地域での経済活動の誘発

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>高齢化しつつある農村集落等における経済活動・効果の誘発と自然資源の保全・活用による都市と農村が共生する社会の構築。 グリーンツーリズム等の推進による農村集落生活や自然環境資源の魅力と楽しみ方の提供に基づく、地域経済の循環や新たな就労機会の創出。 里山観光に対応した体験型農園(ブルーベリー等の果樹生産)の整備と都市部の菓子・飲食店等との連携による来訪者もてなしのためのビジネスの創出。 湖面を活用したディンギー(小型ヨット)やカヌー、マリンジェット等のスクールやオートキャンプ場、乗馬トレッキングコース(首都圏近郊には専用長距離コースがない)、ドッグランを併設したトレッキングコースの整備等によるアウトドアライフの提供。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 遊休農地 ■ 農業体験意向を有する都市生活者 ■ 都心通勤のリタイア層の増大 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山林、里山、川、湖、農村集落、歴史性、文化性、風土 ■ つり船、冬のわかさぎ・へら、キャンプ場、竹の子の里【藤野町】 ■ 舟遊び【相模湖町】 ■ 人口に対する市民農園数が多い【城山町】 ■ 農産物の直売、木製カナディアンカヌー【津久井町】

(4) 自然環境資源を活かした環境学習機会の強化

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>各種教育機関における環境学習の場・機会としての農村や山林の活用。 治山治水の重要性や上流域から下流域(山間・丘陵～湖～川・平坦部)に至る総合的な自然環境学習プログラムの創設や森と川の生態系の管理・学習・生産拠点の整備。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育機関が多い ■ 博物館 ■ 相模川ふれあい科学館 ■ 相模川自然の村公園 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山林、里山、川、湖、農村集落、歴史性、文化性、風土 ■ ホタルの自生地、清流の里、エコミュージアム計画【城山町】 ■ キマダラルリツバメとその生息地、カタクリの自生地、ギフチョウとその生息地【藤野町】 ■ 城山湖・町民の森散策路(かながわの探鳥地50選、かながわの公園50選)、城山かたくりの里(かながわの花の名所100選) ■ 宮ヶ瀬湖・鳥居原ふれあいの館、早戸大滝(日本の滝100選) ■ 相模湖(かながわの景勝50選、かながわの花の名所100選)、県立相模湖公園(かながわの公園50選) ■ 舟遊び、アミューズメントパーク、相模湖ピクニックランド、ふるさとの森、かたくりの郷(相模湖町) ■ 藤野町・陣馬山と陣馬山のヤマザクラ(かながわの景勝50選、かながわの花の名所100選)

(5) 季節感に応じた観光パッケージ商品の開発

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>多彩なイベントや地域観光資源のネットワーク化による市外からの来訪や新たな余暇生活の楽しみ方の提供。</p> <p>各種大会や会議、商用で来訪した人たちへのアフターコンベンション等としての活用。</p> <p>桂川～相模川の川観光資源の発掘と津久井三湖等の一体的な売出し・PR。(富士五湖のようなブランドイメージづくり)</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際大会ができるグリーンプール ■ 関東有数の本格的な陸上競技場(整備中) ■ 国際的・全国的規模でビジネス展開する製造業事業所 ■ 大きな集客実績のある祭り・イベント ■ 各種公共施設・ホールでのコンベンション機会 ■ 当麻山無量光寺(かながわの景勝50選) ■ 八景の棚、水郷田名(相模川八景) ■ 道保川公園(日本の音風景100選、かながわの公園50選) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山林、里山、川、湖、農村集落、歴史性、文化性、風土 ■ つり船、冬のわかさぎ・へら、キャンプ場【藤野町】 ■ 城山湖・町民の森散策路(かながわの探鳥地50選、かながわの公園50選)、小倉橋周辺(かながわの景勝50選、かながわの橋100選)、城山かたくりの里(かながわの花の名所100選) ■ 津久井城址城山(かながわの景勝50選)、宮ヶ瀬湖・鳥居原ふれあいの館・虹の大橋(かながわの橋100選)、早戸大滝(日本の滝100選) ■ 相模湖(かながわの景勝50選、かながわの花の名所100選)、県立相模湖公園(かながわの公園50選)、小原宿本陣(神奈川の町並み100選) ■ 舟遊び、アミューズメントパーク、相模湖ピクニックランド、ふるさとの森、かたくりの郷(相模湖町) ■ 藤野町・陣馬山と陣馬山のヤマザクラ(かながわの景勝50選、かながわの花の名所100選)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 桂川～相模川 ■ 年間を通じて各地で開催される多彩な祭り・イベント 	

(6) 産業交流拠点の整備

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>地域内の物産品・特産品の販売やセールスプロモーション、試作商品等のアンテナショップ等。</p> <p>地元農産物や特産品、それらを活用した新商品等について、消費者・市場との接点を創出することによるPRと競争力の強化。</p> <p>地域間・産業間の交流による地場産素材や地元技術を活用した新たなブランド商品の開発・供給。</p> <p>広域交通流動に対応した産業インフォメーションセンター機能の設置。</p> <p>首都圏中央連絡道路IC周辺における首都圏のバックアップシティとしてのロジスティック拠点の整備。(物と情報の集積・流通、首都圏交通環境の正常化支援)</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 実験都市 ■ 広域幹線道路等における広域的な交通流動 ■ 道の駅(商工会議所「道の駅研究会」による提案事業) ■ ダチョウ(農業特区) ■ 相模の鮎 ■ やまと芋 ■ 推奨銘菓(あじさいの夢、相模の娘) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 梅ごろも、梅わいん、もみじ卵、しろやま生みたてプリン【城山町】 ■ 組み紐製品(仏具、和服用品、包装用の紅白ひも、箱ひも、手芸素材、テニスラケットのガット、テーブルクロス、ファッションベルト等)、乾麺、日本酒、かんこ焼、煎餅、和菓子、しあわせ漬、木製カナディアンカヌー【津久井町】 ■ 栗、トウモロコシ、梅、ゆず、竹の子、山芋・うどん 漬物、農産物の直売【相模湖町】 ■ いわ麺、ゆずワイン、木工品、ゆず坊、ゆずシャーベット、ゆずの尊、紅茶アイスマルク、やまなみうどん、ゆずせんべい、王朝キムチ、陣馬味噌、お茶まんじゅう【藤野町】
<p>■ 首都圏中央連絡道路の整備</p>	

(7) 交通利便性の向上と移動手段を補完する情報ネットワークづくり

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>鉄道ターミナルや広域幹線道路の結節点と地域全体をネットワークするバス路線の整備。(民間事業者の参画による日常の生活利便性対応型のデマンドバスや観光ルート開発による整備推進)</p> <p>ユビキタス社会に対応した日常生活における利便性支援や行政サービス等の情報交流、相互情報受発信ネットワークの構築。(インターネット等による家庭診療、都市部と農村・山間部のリアルタイムでの情報交流)</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ JR横浜線、JR相模線、京王線、小田急線、市内14鉄道駅 ■ 国道16号、国道129号 ■ FMさがみ ■ 新交通システム等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 首都圏中央連絡道路の整備【城山町】 ■ 中央高速道路、国道20号、JR中央線【相模湖町、藤野町】 ■ 国道412号、国道413号【津久井町】 ■ 住民運動による光ファイバーの敷設【相模湖町】
<ul style="list-style-type: none"> ■ 首都圏中央連絡道路の整備 	

(8) バイオ技術と農業との連携による食材自給率の高い都市づくり

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>製造業や研究機関・大学等の研究・開発力と農業生産の工業化・安定化・市場競争力の強化等の融合。(豊かな自然環境にふさわしい野菜工場の整備、農業生産の企業化)</p> <p>自然環境を活かしたバイオ・環境研究所や農業・環境系大学との連携による環境研究学園ゾーンの創出。</p> <p>安心安全な地もの野菜のブランド化と地産地消の推進。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高次研究機関 ■ ハイテク企業群 ■ 麻布大学 ■ 北里大学 ■ 青山学院大学 ■ 大規模な消費人口 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優良な農地 ■ 無農薬・有機農業【相模湖町】 ■ 帝京大学薬学部【津久井町】

(9) 財産区等における遊休地や未利用農地等の有効活用・運営

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>援農ボランティア(有償・無償)や体験学習・生涯学習の場としての積極的活用等による農業の新たな担い手育成。</p> <p>森林資源の管理ビジネスの研究・創出。(観光ビジネスや森林療法ビジネス、間伐材活用等による林業・製材応用ビジネス等との連携)</p> <p>市民農園付住宅地の整備(高齢農業者による農業技術指導 農業外収入と消費機会や生きがい創出)</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 遊休農地 ■ 農業体験意向を有する都市生活者 ■ 市民大学 ■ 都心通勤のリタイア層の増大 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財産区【津久井町】 ■ 森林財産区【城山町】

(10) 資源の再利用・再生による産業化や資源循環社会の構築

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>ゴミ処理場の灰の溶解によるアスファルト骨材の生産・利用。</p> <p>飲食店等のコンポスト化による堆肥作りと農村部での農作物作りによる資源循環と安心・安全な食材供給。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くのリサイクルショップが立地 ■ 各種事業所の集積 ■ 大規模な消費人口 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無農薬・有機農業【相模湖町】

(11) エネルギー自給都市の構築

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>風力発電やバイオマスエネルギー、ゴミ処理廃熱発電等による都市内での発電・供給。</p> <p>“水と緑”のファンド事業との連携による市民・事業所参画による自己消費電力の発電事業。</p> <p>電気自動車や燃料電池自動車、小型燃料電池の普及による自然環境の保全や地球温暖化防止への貢献</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイテク企業群 ■ エネルギー消費地(人口、産業の集積) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水力発電・城山ダム・津久井湖【城山町】 ■ 貯水池内ソーラー発電実験場、オバタ風力発電局計画【城山町】

(12) 自然資源と医療機関との協働による予防医学の産業化

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>森林資源と医療機関等の連携による森林療法ビジネスの創出。</p> <p>丘陵地における予防医学・森林療法を備えた終の棲家としての住宅地整備。</p> <p>長期滞在型リフレッシュセンター(子供から高齢者まで対象とする自然と触れ合うことによる人間性回復支援施設)</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高次医療機関 ■ 北里大学 ■ メディカルセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身近で多彩な自然資源環境 ■ 森林浴のできるハイキングコース【城山町】 ■ 藤野園芸ランド・園芸ランド遊歩道(森林浴の森100選) ■ 町営やまなみ温泉【藤野町】

(13) 産業と芸術のコラボレーション事業

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>市内の産業界における商品・製品開発における地元芸術家のデザイン導入等。 試作とデザイン分野の技術振興。 デザインやIT関連のソフト開発企業の誘致エリアの自然環境共生型による開発・整備。</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 女子美術大学 ■ 桜美林大学 ■ 職業能力開発総合大学校 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 芸術の里、県立芸術の家、木工品【藤野町】 ■ 津久井カヌークラフト(県産材を使った手作り木製カナディアンカヌー、津久井郡特産の組み紐をシートの素材として使用)、組み紐製品(仏具、和服用品、包装用の紅白ひも、箱ひも、手芸素材、テニスラケットのガット、テーブルクロス、ファッションベルト等)【津久井町】

(14) 知識社会における地域資源活用型の新たな産業の創造

新“相模原市”における事業・施策の提案	
<p>津久井地域の地域資源活用による産業化・産業創造。 地域クラスターによる産学官の協働体制(大学、公的研究機関、中核企業を核とした産業界、地域キャパシティ(地域教育力、都市文化、都市のアメニティ、行政機能・制度))</p>	
相模原市における資源	津久井地域における資源
<ul style="list-style-type: none"> ■ 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部相模原キャンパス ■ 博物館 ■ 北里大学 ■ 相模女子大学 ■ 青山学院大学 ■ 和泉短期大学 ■ 職業能力開発総合大学校 ■ 相模原・町田大学地域連携方策研究会 ■ 首都圏南西産業活性化フォーラム ■ さがみはら産業創造センター 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水源地 ■ 自然観光資源 ■ 帝京大学薬学部【津久井町】

5. 進むべき方向性

(1) 新“相模原市”の樹立へ向けて

地方分権や行財政改革への対応が求められる中で、自治体における財政運営の健全化が急務の課題である。

自治体財政の健全化へ向けては、効率的かつ効果的な財政運用と投資が求められるが、究極的には“自立都市”としての都市経営の成否が大きく影響するものである。

自立都市の形成へ向けては、産業界の活力・創造・発展による地域経済の魅力向上こそが重要である。

今後の低成長・少子高齢化社会においては、今までのような住宅コストに基づく居住地選択の時代から、住環境・生活環境による居住地選択の時代に移行していくことが予測される。

また、自由時間・余暇時間の増大傾向の中においては、移動・流動の活発化とともに、身近なところでの充実したライフスタイルへのニーズが高まることが予測される。

さらに、都市の自立性を高める根底においては、潜在的労働力としての女性や高齢者の仕事の場づくりが求められる。今後の産業界としての取り組みや自立都市の形成へ向けては、身近な生活環境の中での地域資源の活用や地域課題への対応等に基づく地域産業起こし等の推進を図ることにより、多彩な就業機会の創出による個人の生活面も含めた自立性の向上が求められる。

今回の都市産業研究会における相模原市と津久井地域4町を対象とした経済界としての広域連携に基づく都市づくりの検討の結果、相模原市の都市ストックや津久井地域の自然環境資源が共生することによる新たな都市魅力や産業・経済の創造及び発展の可能性が抽出された。

相模原市が自立都市としての道を歩むためには、津久井地域4町との合併を行うことにより、より一層の活力向上と新たな可能性へのチャレンジと創造を具体のものとするための相互補完・連携が求められる。

新“相模原市”の形成による相互補完・連携による取り組みの具体化こそが経済及び環境の両面での“持続可能な自立都市づくり”と“選ばれる都市魅力の創出”を導くものである。

(2) 自立都市の形成から “ 政令指定都市 ”

相模原市と津久井地域4町の合併においては、それぞれの地域における個性・特徴を尊重・重視する中での相互補完・連携による魅力強化を推進することが重要であり、合併後の行政運営においては、旧町単位での「地域審議会」制度(合併による住民と行政の距離が遠くなる等の懸念への対応や、それぞれの地域の実情に応じた施策の展開に対する意向表明のための組織)の導入が想定される。

合併後の相互補完・連携による自立都市づくりと各地域における活力創造により、より一層自立性の高い・充実した生活を享受し得る都市経営の先には、“政令指定都市”への移行と地域審議会から“区制”による自立的魅力を備えた各地域の形成が実現される。

(3) 今後の産業界の役割

都市産業研究会は、本提案書の検討過程の初期段階において、津久井地域の商工会等との意見交換・懇談会を行った。

その懇談会においては、相互理解の場としての取り組みであったが、その後の広域連携による取り組みの可能性や新“相模原市”の形成による事業展開の方向性の検討の結果、多彩な施策・事業の展開が見えてきた。

今後、商工会議所・産業界としては、津久井地域の産業界との交流機会の多様化と実践的行動への移行が求められる。

そのため、津久井地域の各商工会を窓口として、産業界の相互啓発と情報・技術交流のための連携・協働・参画の体制づくりと持続的な取り組みの推進体制の構築をめざすものとする。

また、活力と魅力ある地域づくりのための各種の事業展開を図るためには、産業界のみならず、NPOや各種地域団体等と連携・協働することにより、多彩な人々が参画する取り組みの推進に努めるものとする。